

お詫び

三月下旬を用途にお届けすべき事を予定しつつ本書の執筆に取り組んで居りましたが、「想う事」の文章化に想定外の時間が掛かり過ぎ(↑半端は許されない+関連する専門知識(今回は特に「浮世絵」と「深海魚」について)の参照)と「主な原因」、年度跨ぎでのお届けに至りました事を、先ずはお詫び致します。尚、子供達の学年は三月下旬(↑当初公開予定)現在の時点に於けるものです。

「学校では先ず教えない特定分野に特段の関心を持ち、且つ実社会に於ける当該分野の専門家と対等に渡り合うだけの優れた能力を發揮する」子供(小学校中学年児童〜高等学校生徒)達を紹介する多様性番組『博士ちゃん』(『テレビ朝日』…以下、テレビ朝)を「発達障害(高機能自閉症・知能指数が比較的高く且つ特定分野に於いて卓越した能力を發揮する一方、健常者と比べて頭の回転や手先の動きが遅く、事が思い通りに進まず或いは時間が迫ったりすると癪癪を引き起す(↑ばにくる)事が多い。知的障害を伴わない脳障害の一例)を負った状態で昭和に生まれ育ったが故、才能を活かす機会や人に恵まれる事無く世間に身を置かざるを得なく成り、…今は非正規の掛持ち就労を余儀無くされ且つ其の片方(会社)では「遅い」が故に同僚他者に迷惑を掛け続けている」者の目で捉え論ずる(↑幼き日の自分と「二人で」視つつ)六回目は、去る冬・即ち一

二月(昨年)から二月迄に放送された新作七本中から筆者也に關心を呼んだ「三十α」件を精査・選別し論ずるを試みたい。

北斎男子訪欧記

(中学二年男子・一月三日放送、三時間枠の後半(前半は「神社仏閣女子」と三司会者に拠る「京都三神社参拝」↓「其の伍」参照)

古代エジプト文明に嵌まる小学六年(当時。現中学二年)女子(以下、古エ女子)のエジプト訪問記(二〇一三年一月三日放送)に次いで番組『博士ちゃん』としては二件目・正味一週間の海外収録(前年の一月中旬に?↑雪が降っていない所を見ると)。

自宅に在った「葛飾北斎」の画集中の一件を四歳で目にして

以来、北斎の浮世絵に嵌まり朝の起床時には北斎関連の水墨画を描く事を日課としてる現中二男子(以下、北斎男子)が、「無論、共に番組スタッフを通してだが、」オランダ王国と連合王国(イギリス)・双方の国立博物館行きを希望、両国当局に拠る内部閲覧の許可を受けての欧羅巴訪問(訪欧)と成った。先ずオランダにて四日間、次いでイギリスにて三日間の滞在。

オランダでは北西部の都市・ライデン市内に在る「国立民族学博物館」(一八三七年(天保八

開設)内の収蔵庫に立ち入らせて貰い、黒衣を着た女性の後ろ姿を描いた肉筆の掛軸(「フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト」(二七九六(寛政八)―一八六六(慶

先天性脳障害(高機能自閉症=非知的障害)者の眼から観たテレビ番組

『博士ちゃん』に想う事

其の六

2023~2024年(令和5~6年)12~2月

五〇年弱遅れの

「しくじり博士ちゃん」

佳羅春男

一九六三年(昭和三八年)三月出生

応二)、ドイツの博物学者)が日本滞在中(一八三三(文政六)―一八二八)、『北斎漫画』(↑北斎の名を海外に知らしめる契機と成った絵手本)と共に得てオランダへ持ち去ったと云う。普段は桐箱きりばこに入れられ保管されている)や四人の男女を描いた極彩の洋画風肉筆画を見せて貰もらった後、研究目的で数年間の日本駐在歴が在る前博物館長の自宅に案内され、一女性を粗目ざらめの紙に描いた短歌用の挿絵さしえを手に取りさせて貰った席で「一〇年後には北斎の研究家に」旨むねを勧められた。

北斎男子はイギリス入国後の初日、気に成った建物を幾つか写生しつつ首都ロンドンの街を歩き、其の道中で住宅街に立ち寄っては北斎の代名詞的作品群『富嶽ふがく三十六景』中の大波画「神奈川沖波裏」(二〇二四年発行予定・次期一〇〇〇円札の裏面にも使われる)を模写した壁画も目にした。

「大英博物館」(一七五三年(宝暦三)開設。世界最初の公立博物館)

へ行き、収蔵庫に立ち入らせて貰ったのが其の翌日。――番組では、明治時代には「散り紙テイッシュユースーパー」同然に扱われた」と云う浮世絵を捺印なすいんの上でフランスへ持ち込んで販売に勤いそしみ、同国で行われた「万国博覧会」(一九〇〇(明治三三))に関わる日本政府の事務官長も務めた美術商「林忠正たけまさむね」(一八五三(嘉永六)―一九〇六)を「浮世絵の芸術性を高く評価し、其を世界に伝え広めた功労(否、勲労?)者」旨で盛んに(?)持ち上げてたが、彼・林の捺印が末頁に入った浮世絵の本と、其とは別に林がフランスへ持ち込んだと云う肉筆の「下絵(浮世絵の設計図と云われる)」とを、収蔵庫では見せて貰った。後者は北斎が出版を希望するも出版業者に拒まれた絵図群の一部だそう、二〇世紀始めにフランス国内で競売に掛けられるも行方不明と成った後、九〇年頃にイギリスで発見され改めて競売を

経て大英博物館に納まった――との事(前者も恐らく、略同様の経緯を辿たどって同博物館に納まったか)。

今回訪問の二箇国共に、博物館内収蔵庫出入口の扉の開閉の様子は撮影禁止と成った。当然乍ならだが、開閉に必要な暗証番号(―特定機密事項)の解読・漏洩えいを防ぐが故だろう。

イギリスに於ける三日目は、とある競売事業会社の社屋にて、競売直前と云う「神奈川沖波裏」の「後期・初摺はつずり」(其の後の競売で六〇〇〇万円台の値が付いたと云う)を見せて貰った。頻繁に模写されてる初期物に於ける「暈ぼかし」が横に入っているのに対して、後期の其は富士山へ向けて斜めに入ってる：等と満足げ気に見入ってた。

古エ女子の時は両親が同行したが、今回・北斎男子の訪欧には親族からは母親のみが同行した(父親は恐らく、仕事の都合で加われなかったんだろうけど…筆者)。大

英博物館の前に立った時、「博士ちゃんの母は皆泣いてる」旨を眩くらきつつ、北斎男子の母も亦、うっすら泣いた。――其の涙は恐らく、「嬉うれしさ八割十悔なすゆしさ一割二割」だろう。我が子が育つが故の嬉うれしさと、自分(更さらには夫婦)の遣やりたい事を犠牲にせざるを得ぬが故の悔なしさと――子育てには必ず、自己犠牲を伴うが故に苦勞が付きもの。

「博士ちゃん」達は個々、特才児●(―特定分野に特異な才能が在る児童及び生徒↑「ギフトッド」)か、或いは発達障害(知的障害を伴わないもの―「アスペルガー症候群」「高機能自閉症(筆者も其の一人だが)」等)か、の何れか(―に関しては、各親御さん又は本人の自発的告白に期待するしか無い)――と筆者は診み続つけてる(↑自らの生来の経験+非正規な乍ら先天性脳障害に関わる社会福祉法人に於ける働きを通して得た知識)が、どちらにしても、「博士ちゃん」育てに掛かる苦勞は所謂「普通

(並)の「子に掛かる其とは桁違いに重い事、想像に難くはあるまい。——「博士ちゃん」の親御さん方はきつと皆、我が子の「好きな事」を伸ばす為に本や教材等を並の子より遥かに多く買いつつ成長を見守り続けているのだらう。「↑改めて敬服」。

「此処で敢えて寄り道する格好と成るが、」日本人として最初の「包括的人材」と言えるのは、幕末に活躍した「ジョン・マン」こと「中浜万次郎」(一八二七(文政一〇)——一八九八。漁師として就労中に漂流の所をアメリカ合衆国の捕鯨船に救助され、同船の船員として働く内に合衆国東部のポストン郊外へ行き定住する中で英語等を学ぶ。帰国(一八五二)後、幕府の招聘を受け通訳等を務める。明治維新後は主に英語教授を務めた)だらう。

併し、…若し、日本が「鎖国」を行わず且つ、葛飾北斎自身が揺るぎ無き信仰心を貫く(=異国に身を置いて一神教に走らない)中で欧羅巴へ渡り同地でも絵を描き続けてたら、彼が日本で最初の「包括的人材」と成ったかも知れない——との想いに至るのは、筆者だけだらうか。

「寄り道から戻って、」さて此の北斎男子、葛飾北斎に成り切り尽くす果ては、浮世絵を現代に復活そして発展させる絵師と成る——筆者としては是を希望したいが—か、或いは北斎専門の研究家と成る——前述・オランダの「前博物館長」氏は其を希望してるが—か。どちらにしても、北斎に成り切り尽くす上でどうしても、但し作品の性質上、早くて四乃至五年先に、必ず乗り越えねば成らぬ「壁」が待ち受けてる。「春画」だ。

葛飾北斎(一七六〇(宝暦一〇)——一八四九(嘉永二))は一九歳で

絵師として活動を始めて以来、死亡迄の七〇年間で三万四〇〇〇点余りの作品を残してるが、彼の代名詞的作品群『富獄三十六景』を始めとする「錦絵」・『北斎漫画』等の「絵手本」・「肉筆画」・「読本」・『富獄百景』等の「絵本」・「狂歌本」・「摺物(版画)」・「黄表紙」と併せ、春画も一〇数点を残してる(但し此の一〇数点について、本人の署名は基本的に無い)。

男女間——且つ多くは正規の結婚を経た夫婦間では無い——の性交——人類の継承の為に必須の行為だが此の場合、多くは「情欲」の景——を生々しく描く「春画」。其の描写故に、『博士ちゃん』のみ成らず地上波や無料BSのテレビ放送では先ず扱えない(↑年齢制限を仕掛けられない。亦、深夜から未明に掛けて放送するにしても世帯に拠っては録画した上で其を子供に見せる可能性も在り得る)し、恐らく、北斎男子が参加してる

浮世絵愛好家団体——会員の殆どは五〇歳代以上の男性(北斎男子は昨年の放送で「彼等だけが今の自分にとつての親しき話し相手」旨を語ってた。北斎に関連する講演も何回か熟してるが、彼と同年代の人は先ず会場に来ない、との事)——でも「春画や裸女体画は高校生以下には見せない」旨を規則に盛り込んでるだらうし、四歳で初めて目にしたと云う、自宅に在る北斎の画集についても恐らく、「子供立入禁止」の部屋を確保の上で、春画や裸女体画が載ってる巻を同部屋内に置き父と母の一方又は双方(夫婦)のみで鑑賞する——と云う措置を、北斎男子が高校を卒業する迄は執り続けるものと思われる。「、ですよね」。——映画界が性交を描く映画を「ポルノ」と称した上で「成人映画(=R一八+)」に指定し、高校生以下を当該映画上映の館に出入り出来なくする措置を執る事と理屈は同じ。無論、性交の場面

を未成年・特に性欲の発達が旺盛な第二反抗期(＝思春期)の内目にする事は早かれ遅かれ、性非行・更には性犯罪(強姦・痴漢・ストーカー…等)の当事者と成り得る可能性が高く、其を予防する為の措置だ。

北斎男子も亦、高校を卒業する迄の間に春画以外の三万四〇〇〇点弱は目にし尽くすだろうが―した後、春画を否応でも目にしなければ成らない。其の上で、春画の描写に動ずる(性的興奮を覚え色々とする)事無く批判的に受け止め克服した時こそ、初めて「北斎に成り切り尽くした」と言い切り得て、絵師か研究者か、どちらに進むにしても胸を張って職業人且つ包括的人材としての道を拓く事が出来る。「其が若し出来得なければ、訪欧に同行した母の涙も「完全な悔し涙」と成る」――と筆者は断言したい。

魚捌き男子の

地域限定魚料理・講座十紀行

(中学一年、二月一〇日放送)

四歳で魚捌きを始め、小学一年で深海魚「鮫鱈」の吊し斬りを習得したと云う、現中学一年男子が語った「地元住民だけが知ってる・食べてる魚料理」。

前半は手書きの板を駆使して解説。宮崎県日南市の「ごんぐり煮(鮪の胃袋(＝ごんぐり)を油で炒め、だし汁に味噌・清酒・砂糖・味噌と生姜汁を加え甘辛く煮込む)」。愛媛県宇和島市の「太刀魚巻(太刀魚を味噌・清酒・砂糖と生姜汁で作る漬汁に浸けた後、竹に螺旋状巻きし炭火で焼いた上、漬汁に味噌を加え数回塗っては焼く)」。長崎県長崎市の「ハトシ(↑蝦多士海老の擦り身を食パンで挟んで油で揚げて作る)」。北海道函館市の「鰯汁(肝を除き熱湯で茹でた上でぶつ切りにした鰯を煮込んで作る)」と高知県土佐市の「靱の兜煮(靱の

「叩き」作りで余った頭を甘辛く煮て造る)」を紹介。「ごんぐり煮」の解説中、「酒にも合う」との言葉が本人から。――「此の子の親は一体、どんな育て方を遣ってるのか」旨の、呆れとも憤りとも付かぬが如き思いを筆者としては禁じ得なかった。

後半は、青森県下北郡風間浦村の漁港を拠点とし船に同乗して臨んだ鮫鱈漁の様子を報告。

真冬、港から二〜三キロメートル離れた津軽海峡南東部で水深七〇メートル以上に達すると云う海域を漁場とし、其の底に予め網を仕掛け、鮫鱈を引っ掛けて水揚げする。傷付けずに漁る為だ(↑品質を追求するが故?)。

網の仕掛けは本来なら漁の一乃至二日前に行うが、今回は漁当日、早朝から仕掛けに臨み(↑収録(一月始め頃?)の関係で?)、其の完了から三五分後に鮫鱈が掛かり始め、約三時間後に水揚げ。三一頭が掛かった。此の

数だけでも彼・魚捌き男子にとっては正に「夢の様な一日」だったろう。

帰港後、其の三一頭を生け簀に浸からせ引き揚げてから、彼にとつて本領発揮の場と成る吊し斬り。纏めて丸裸にしてから、一頭ずつ内臓を取り出す。其を約三〇分で全て熟した。其を「唐揚げ」と「しゃぶしゃぶ」と「煮込み鍋」とに加工し(↑刺身を避けたのは食中毒対策か?)、スタッフ経由で招待した村民代表と共に御馳走に与って締め括った。

煮込み鍋用の料理では野菜切りの不得手を晒し、主司会者(お笑い芸人二人組の突っ込み役)から課題として指摘されたが。彼・魚捌き男子の将来の道については語られなかったが、深海魚専門の漁師兼料理人と成って道を究め、其の上で出来る事なら日本に停まらず、世界の海へ赴き、各国の深海魚を釣り上げて捌いてみて欲しい―との望

みを、「博士ちゃん」達こそが「成年後の包括的人材へ、並の子達よりは近い距離に居る」ものと信じて止まぬ筆者としては禁じ得ない。

元NHK記者

対

六博士ちゃん II

(二月二四日放送)

日本放送協会

元NHK記者氏(以下、元N氏)を迎えて、『ニュースそ

だったのか』との合同企画に拠る、年に一回・三時間二四分枠(CM込み)の長丁場・昨年(二〇二三年二月二五日放送)に続いての第二回目。

前半は、元N氏と「航空写真男子(高校三年)」とが、ヘリコプター搭乗と地上散策とを併用し、東京の中心部の変遷・消え行く建築物を掛け合い解説(一月前半収録か。地上で合流した漫才女性二人組は専ら、男二人の楽しい掛け合いに水を挿す役割としての出演だ

った様で。緊張の中で学び乍ら観た者としては、不要所か邪魔な存在に他成らぬ)。

後半では元N氏を講師役に、選り抜かれた(?)六人の「博士ちゃん」達を別スタジオに集めた上で「宗教」と「昭和」とを題材としての講義(?)が行われた。其の後半について、此処では考察を試みたい。

今回、収録に臨んだ「博士ちゃん」達は、「歴史本男子(小学五年)」「戦国女子(中学二年)」「日本神男子(中学一年)」「お金男子(小学六年)」と「神社仏閣女子(小学四年)」に北斎男子を加えた六人(↑前回と同様の人数)。戦国女子・日本神男子とお金男子は二回連続。

現在進行中の政治的な出来事―「能登半島地震」関連を含む―について、元N氏を含む司会側としては自ら進んでの言及を敢えて避けた様だが、そんな一種の「禁忌」の突き崩しを極部

分的乍ら試み―言い換えると

「斬り込み隊長役を担い」―、供すると単調気味と成ったろう番組進行を活性化させた感が在るのが、お金男子だ。昨年の放送で『日経平均株価』と云う言葉を放ち司会陣を驚かせた(?)、元N氏監修の時事漫画本を愛読

していると云う、今回は小六のお金男子。他の子供達も過去の(既に教科書にも載ってる)政治や経済に関連する質問を盛んに発したが、お金男子だけは更に進んで(?)、共に現在進行中の国内政治の話・固有名詞を避けつつも「国会議員(自民党の数〇人:筆者注)と裏金」や「特定宗教法人(旧「統一教会」↓「世界平和統一家庭連合」:筆者注)を巡る裁判の行方」についても言及した。

他に言動が目立ったのは戦国女子だった。宗教の部で「イスラム教の信徒が同級生に居る。体育祭では時期が断食期間(ラマダーン:イスラム教に基づく日中断

食。月の満ち欠けに拠り初めて新月又は三日月が見えた日から約一箇月間、日の出から日没に掛けて、一切の飲食を断つ事に拠り、空腹や自己犠牲を経験し、飢餓者や平等への共感を育む)と重なり辛かった」旨の身近な事例を紹介。

終盤。七〇年代に逸ったと云う「健康器具」で主司会者が背曲げ運動を試み、八七年(昭和六二)に発売されたと云う「福袋」の中身(計八七〇〇万円||毛皮外套+乗用車+菱 指輪六〇〇万円)の再現が成された後、元N氏は「元氣だった昭和」の纏めとして、「昭和時代は人口ボーナス(bonus||財産)、今は人口オナーナス(onus||負担・重荷)」と語って、此の日の番組を締め括った。

「順番が前後するが、」元N氏は宗教の部では真ん中で「降誕節もハロウィーン(二〇月三一日。元来は秋の収穫を祝い悪霊を追出す古代ケルト人の祭り。日本では七〇年代に『キティランド』(玩具と書

籍の販売事業会社)が関連商品の店頭販売を始めた事が普及の始まりとされている)も受け入れてる国は他国の何処にも無い」等と神道の特徴を持ち上げ気味に語ってたが、「神道が多神教の特性を活かしつつ、恒久的な世界平和の為に出来る事・遣るべき事」に繋がるが如き言葉は、元N氏からも、亦六「博士ちゃん」達からも、聞かれなかった。――前号記事(「:想う事・其の五」二二三頁参照)を蒸し返す迄も無く、残念な事ではあるが。



去りし冬、以上「三十」件の他に番組で取り扱われた「博士ちゃん」達は放送順に、「野球男子(俳優兼大学一年)」「二月九日。例の「二刀流選手」に関して。――半ば悔しいだろうね。所属選手団の変更(移籍)の発表(同月一〇日朝・日本時間)が数日以上前だったら『博士ちゃん』も内容変更且つ史上初の生放送と成った所だったかも:筆者)／

「大使館男子(中学二年)」「二月一六日(↑但、筆者は此の日、掛持ち先のもう片方(社会福祉法人)の仕事が長引いて帰宅が遅れた故、此の分に限って視聴を逃した。翌(今)年二月に慌てて無料配信の『ティーヴァー(トウバ)』で視聴を試みるも期限切れ。過去の無料配信は前一作限りで、新作放送の前日が視聴期限と成ってる様で)」／「理容信号柱男子(小六年)」「(二月二七日)。尚、何れも前述の歴史本男子・昭和家電男子とお金男子は各々、二者択一式問答の企画(多くは「目利き」。司会とゲストは間違えると電腦画像処理経由で数秒間、醜い容姿と成って映し出される)にも出演している(「歴史」と「家電」は二月一六日放送、「お金」は二月一〇日放送)。

希望を二題。

其一。「一旦、話を戻すが、」元日発生の「能登半島地震」に関する言及は二月二五日放送分では成されなかった。が、被災

した「博士ちゃん」は居ないだろうか。仮に居なくとも、:来る五月の連休時にも、防災検定に最年少で合格した(二〇二三年一月)「戦国女子」には是非、能登半島へ足を運び被災地の現状を直に御覧・取材して戴いた上で、「人が住める土地に乏しい地域が自然の狂気に直面そして被災した時に私達子供が出来る事」について、彼女を含め複数「博士ちゃん」達と一緒に議論をぶつけ合いつつ考えていく機会を番組『博士ちゃん』で。

其二。前号(「:想う事・其の五」)にて「ハイセイコーの陰・地方競馬にて活躍するも呆気無く死んだ日本初の女性騎手」に言及したが、来る五月一七日は其の人:葛西(旧姓:高橋)優子の「五〇周忌」。其に合わせ、「競馬女子(二〇二三年一月一八日放送分に出演)」には是非、岩手県へ足を運び、五〇年前の地元競馬界を知る関係者との会見も

含めて取材、其を番組『博士ちゃん』で披露して戴きたい。

お断り

◆番組『博士ちゃん』の出演者名は著作者『テレビ朝日』(一般社団法人『日本新聞協会』社員)がホームページで公表致して居りますが、佳羅研では、個人情報保護の慎重を期すと共に、実名公表に因って生ずる可能性が在る諸々の危険を最大限に避けるべく、亦、法人格が無い自らの立場も考慮の上で、存命の方々については匿名又は仮名を原則と致して居ります。■本書の作成に際しては、『テレビ朝日』ホームページと『ウイキペディア』フリー百科事典』を主に参照致しました。尚今回、「魚捌き男子」に関して特に、以下の文献もインターネット経由で参照致して居ります。

▽農林水産省ホームページ▽日南市漁業協同組合ホームページ▽日本郷土料理図鑑

佳羅放送戯評
『博士ちゃん』に想う事
其の六

2024年(令和6年)4月8日発行

発行者 佳羅研究所
http://www.kar2007el.ecweb.jp/
お問い合わせ先(電子メール)
s9p-14@kar2007el.ecweb.jp